

平成25年2月5日 新地町沿岸部の防潮
堤、防災緑地、県道相馬亘理線、三滝川が
都市計画決定しました。

平成25年4月

新地町

福島県 相双建設事務所

都市計画決定のスケジュール

- 1 都市計画説明会 平成25年12月27日(木)
- 2 案の縦覧 平成25年1月8日(火)～1月22日(火)
- 3 新地町都市計画審議会 平成25年1月25日(金)
- 4 福島県都市計画審議会 平成25年1月29日(火)
- 5 復興整備協議会 平成25年2月1日(金)
- 6 都市計画決定 平成25年2月5日(火)

都市計画決定（1）

防潮堤、防災緑地、県道相馬亘理線、三
滝川は、津波被災に対し安全なまちの形成
に向けた計画的な土地利用のため、多重防
御に重要な施設として都市計画に位置づけ
整備するものです。

都市計画決定（２）

今回の都市計画決定は、東日本大震災復興特別区域法に基づく『復興整備計画』を活用して都市計画決定を行うものです。

【都市計画決定した施設】



新地町都市計画審議会

- ①木崎地区海岸防潮堤
- ②埴浜地区海岸防潮堤
- ③谷地小屋地区海岸防潮堤
- ④釣師防災緑地（新地町）

福島県都市計画審議会

- ⑤県道相馬亘理線（浜畑磯山線）
- ⑥県道新地停車場釣師線（桶掛田浜田線）
- ⑦埴浜防災緑地（福島県）
- ⑧三滝川

復興まちづくりの考え方

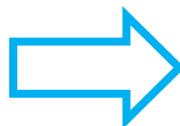
- ▶ 海岸堤防のみの防御から、高台移転や、防潮堤、防災緑地、相馬亘理線、避難計画など、**複数の手法を組み合わせた「多重防御」**による総合的な防災力が向上したまちづくりを目指します。
- ▶ なお、**発生頻度が高い津波**（数十年～百数十年に一度程度）は、**海岸堤防による防御**が可能となるよう、防潮堤を嵩上げ整備します。

海岸堤防の高さについて

「頻度の高い津波」と「最大クラスの津波」

「頻度の高い津波」

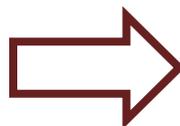
- ・最大クラスの津波に比べて発生頻度は高い
(数十年～百数十年)



「頻度の高い津波」に対しては、人命保護、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化などの観点から、**海岸保全施設整備**を行う。

「最大クラスの津波」

- ・発生頻度は極めて低い
(東日本大震災による津波相当)
(数百年～千年)



「最大クラスの津波」に対しては、住民等の避難を軸に、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせて**総合的な津波対策**を行う。

相馬亘理線整備の目的

■非常時

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時の多重防御の1つとして機能。

（ 県道とJRや町道と交差するため、高さが現地盤から約+6mとなるため、防潮堤、防災緑地とともに減災効果を発揮する。 ）

■通常時

- ▶ 新地町の沿岸部を南北に結ぶ幹線道路。

防災緑地の目的

■非常時

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時、相馬亘理線と一体となり多重防御の1つとして機能。

- ▶ 津波の速度を遅くし、避難時間を確保
- ▶ 津波で流されたものを捕捉し、建物等の被害を低減

■通常時

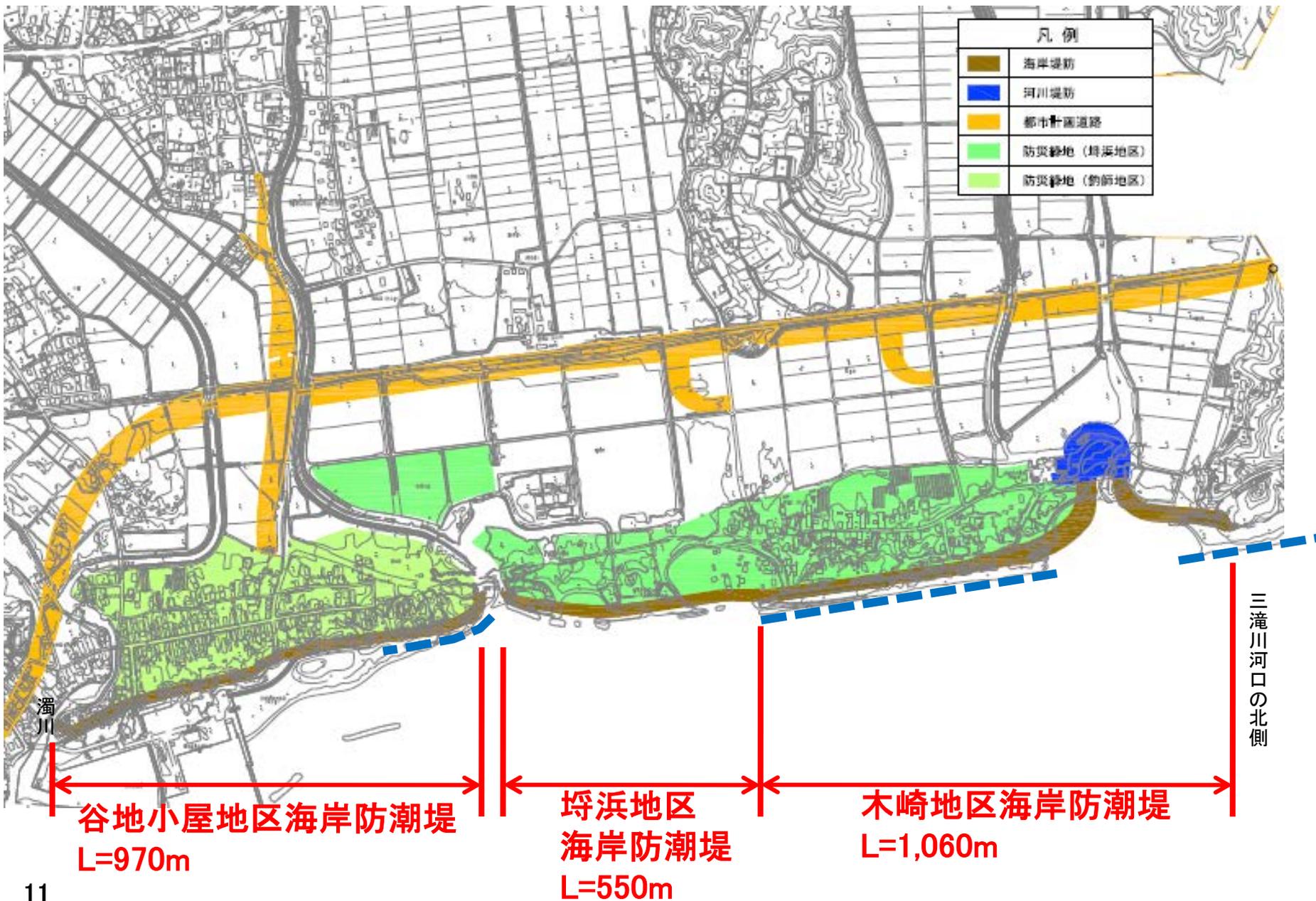
- ▶ 防砂・防風・防潮機能
- ▶ 風景や自然環境の再生
- ▶ 地域資源として活用（非常時の目的を阻害しない程度）

三滝川の目的

発生頻度が高い津波（数十年～百数十年に一度程度）は、河川堤防による防御が可能となるよう整備。

最大クラス（千年に1度）の津波が発生した時の多重防御の1つとして機能する。

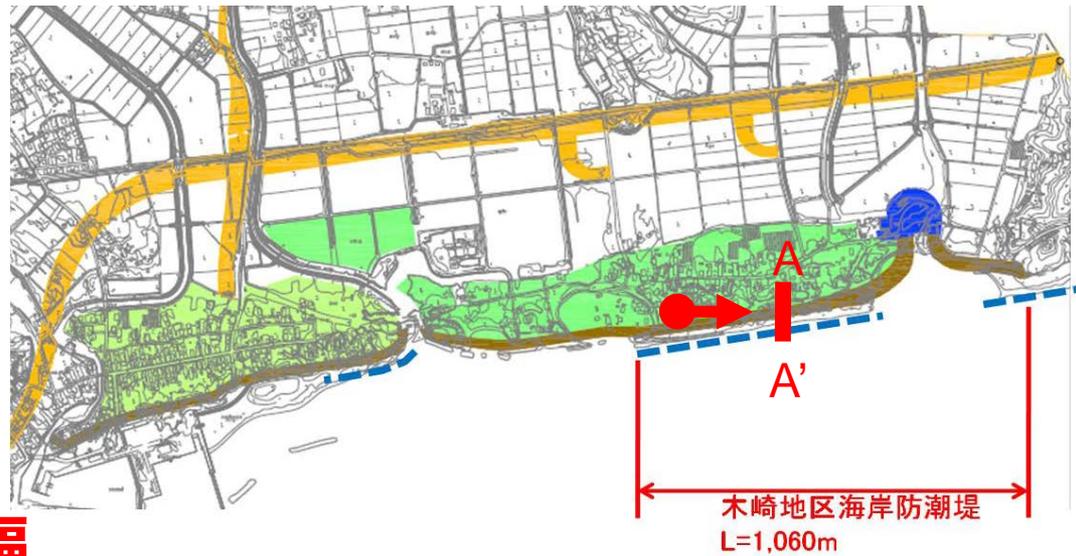
【防潮の施設(新地町)】



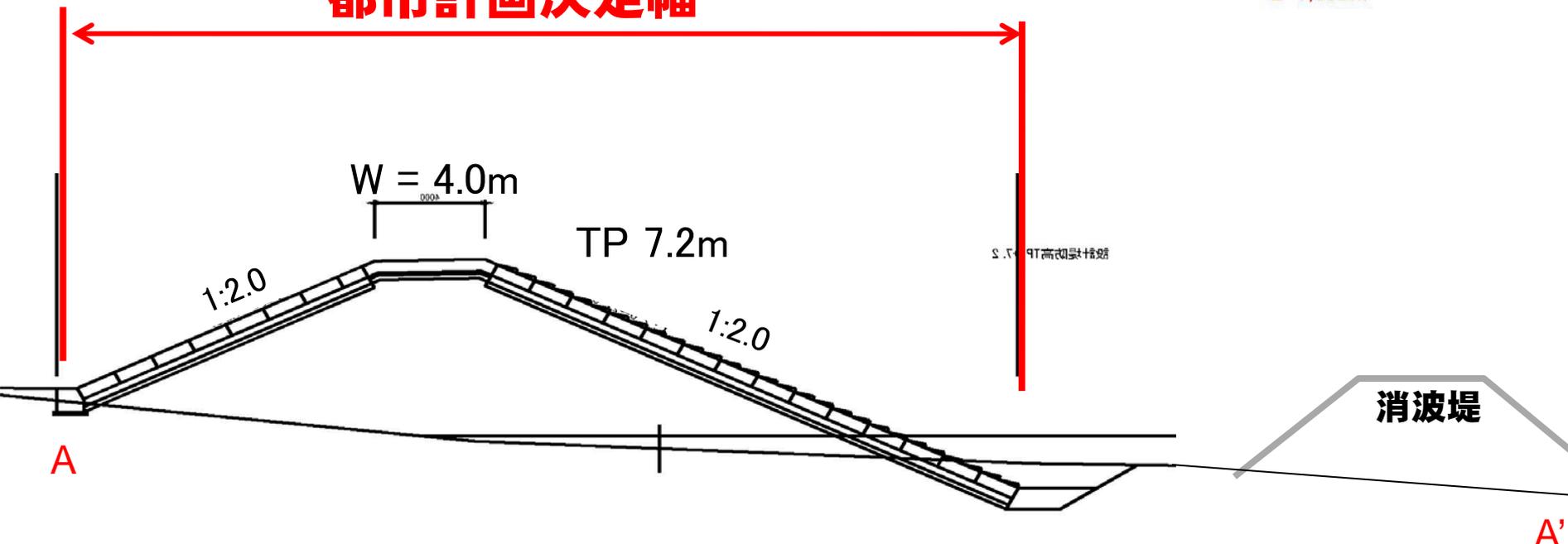
【新地町】

木崎地区海岸防潮堤

防潮堤横断図



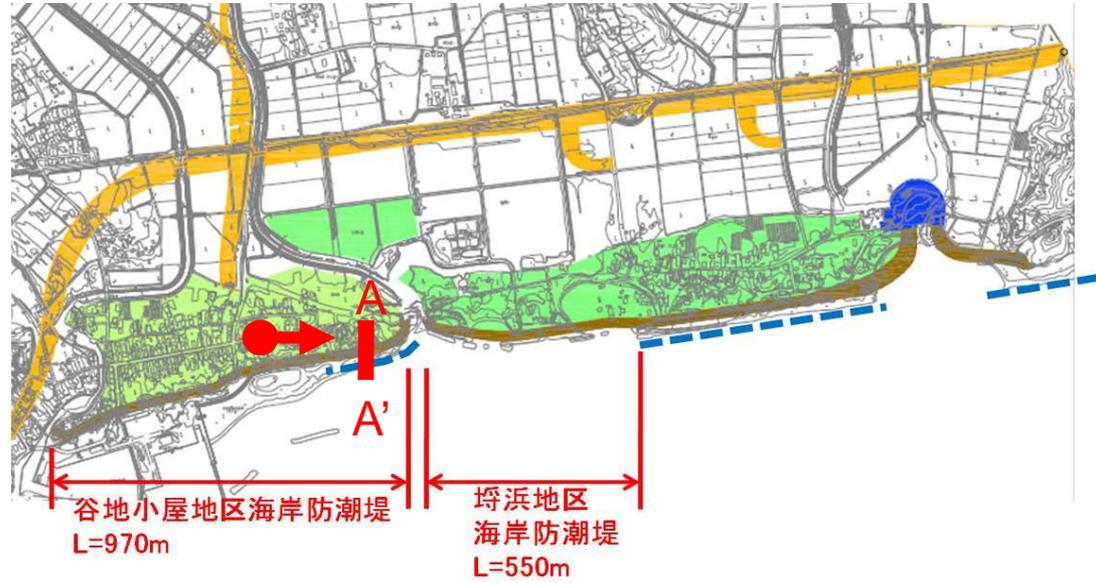
都市計画決定幅



【新地町】

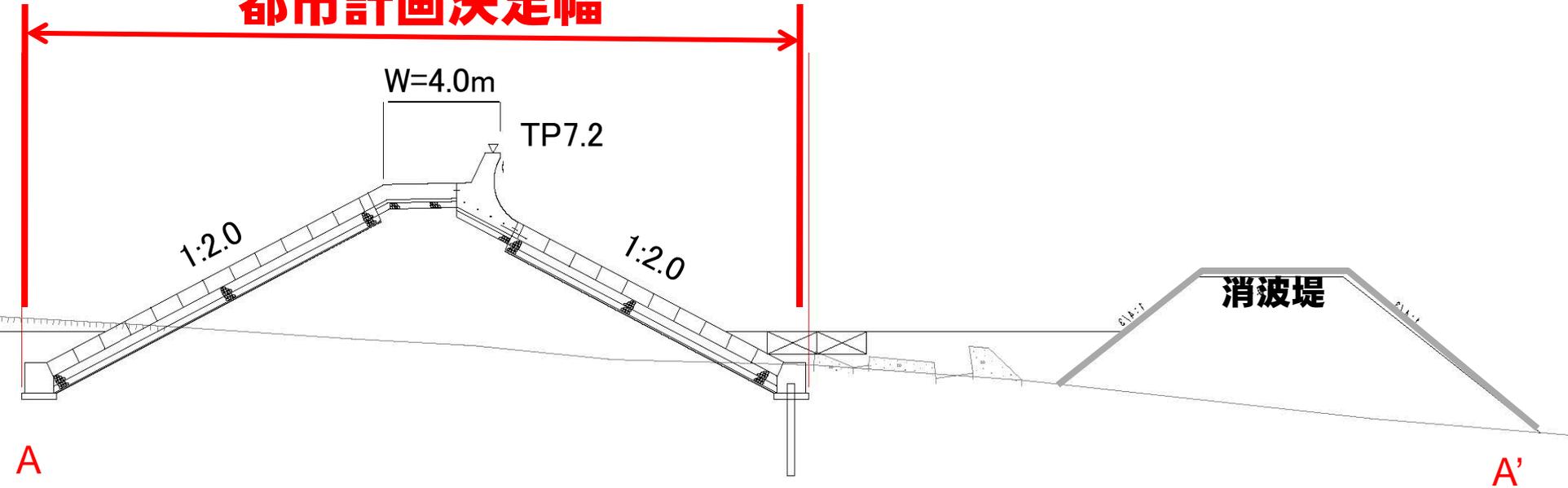
埕浜地区海岸防潮堤

谷地小屋地区海岸防潮堤



防潮堤横断面图

都市計画決定幅

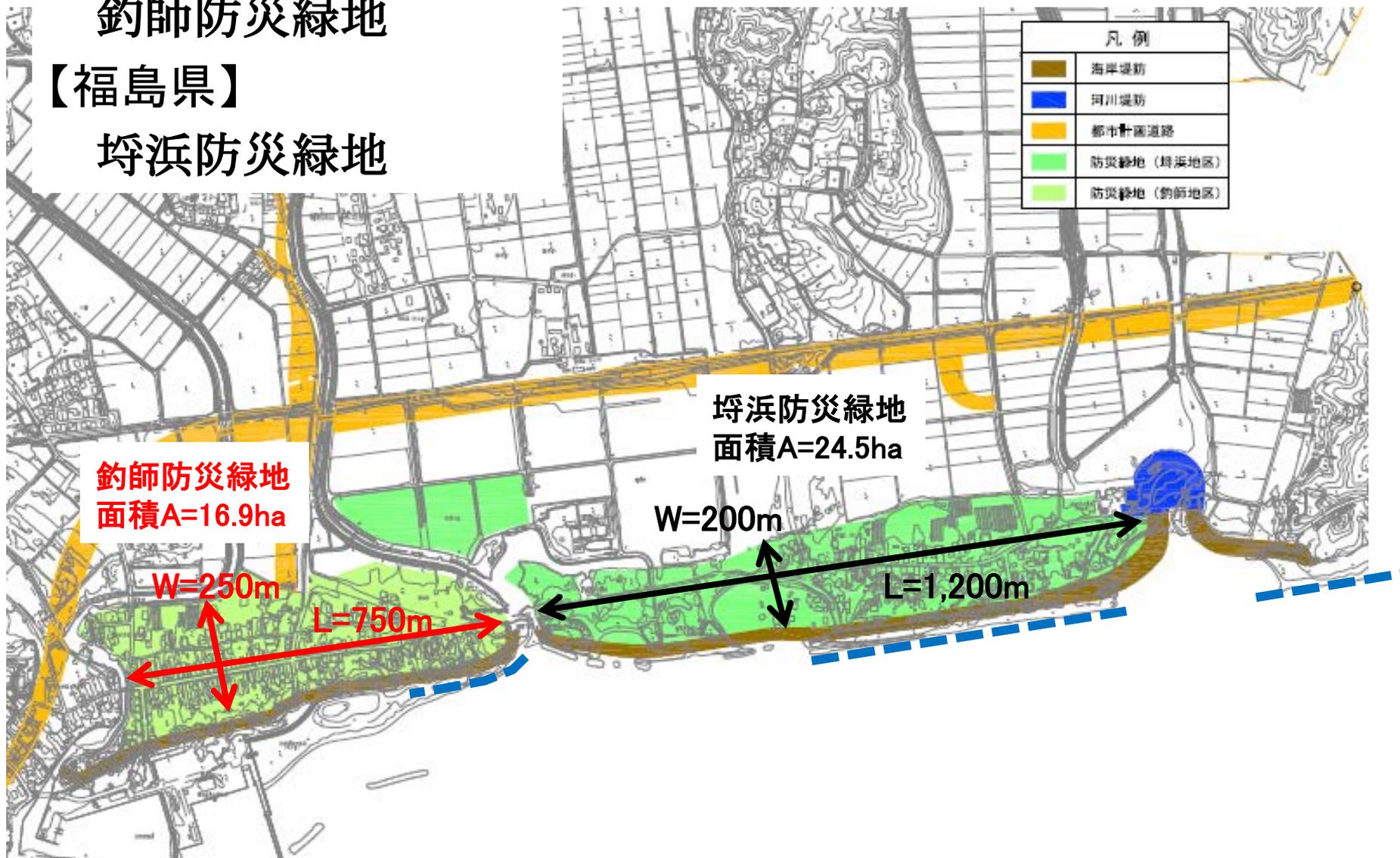


【新地町】

釣師防災緑地

【福島県】

埴浜防災緑地



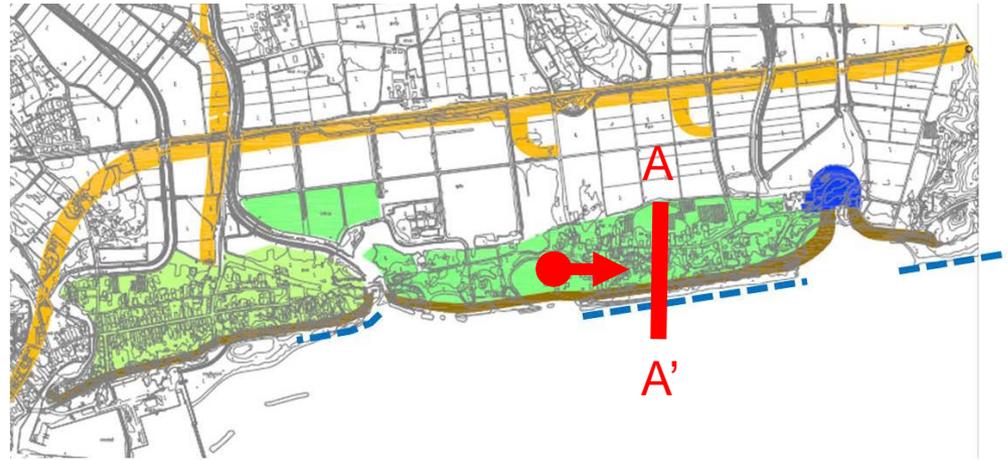
釣師防災緑地（新地町） 代表横断図



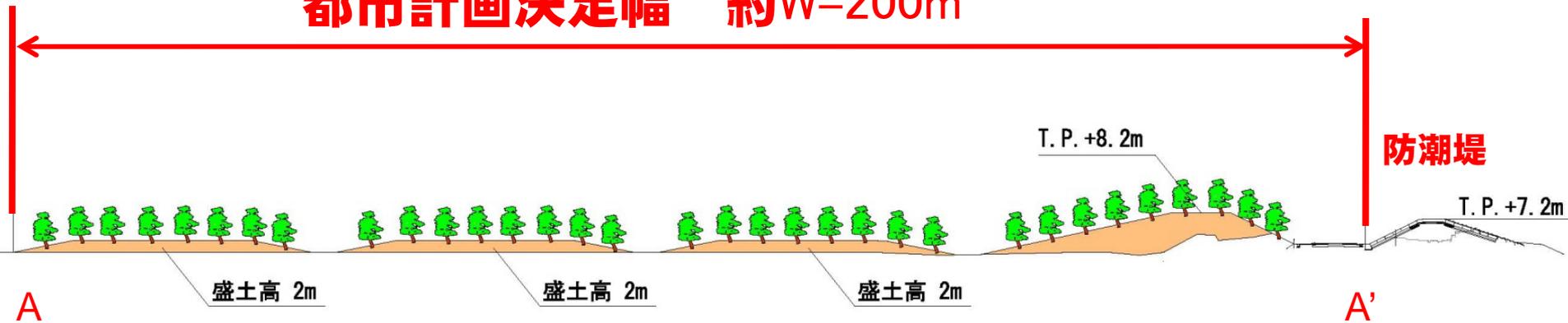
都市計画決定幅 W=約250m



埤浜防災緑地（福島県） 代表横断図



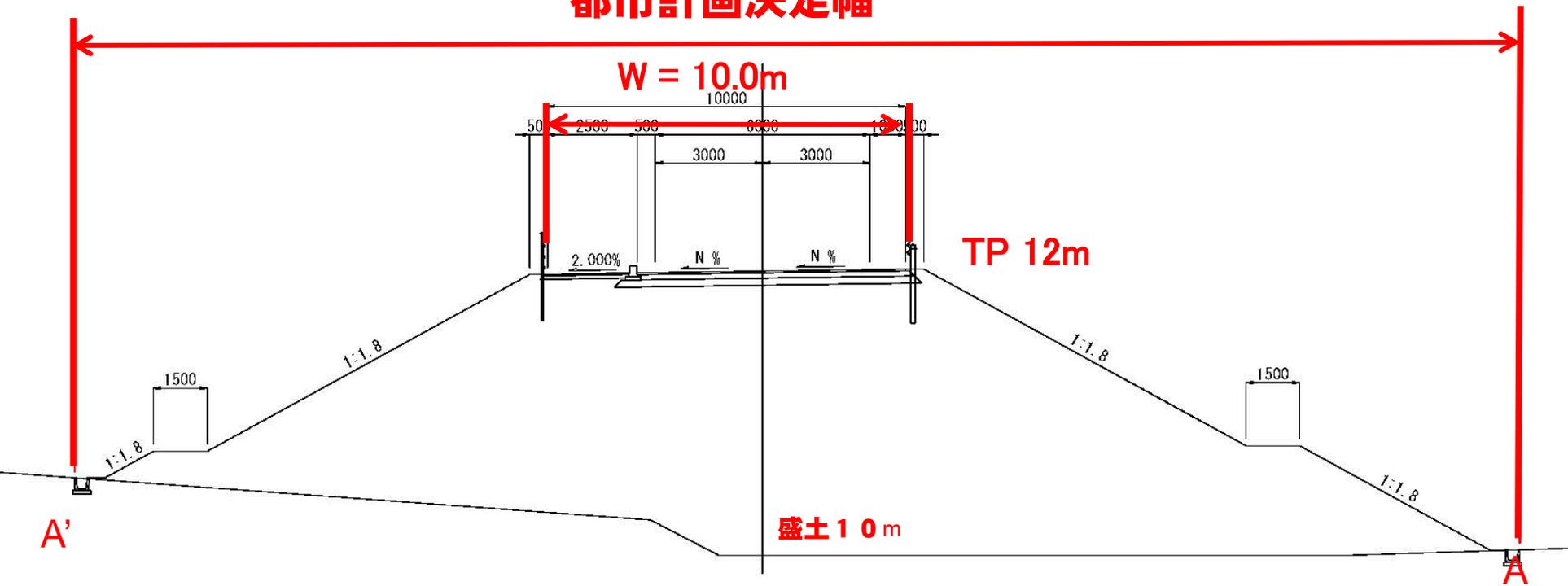
都市計画決定幅 約W=200m



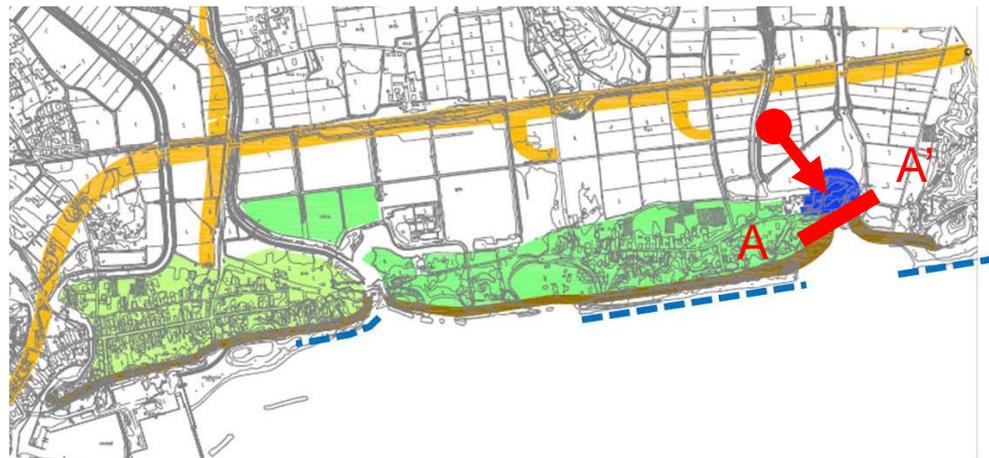
相馬亙理線 (福島県) 代表横断図



都市計画決定幅



三滝川（福島県） 代表横断図



都市計画決定幅 70～110m

